締めくくりの夏
～三年間の思いをのせて～

今年は新型コロナウイルスの影響で、春季総体やインターハイ、コンクール等が中止となった。そんな中、代替大会として県高校夏季特別大会や学校独自の特別コンサート等が開催された。それぞれにたくさんの思いを抱いて臨んだ三年生最後の舞台となったが、生徒たちの表情は、今までやってきたことを出し切った晴れやかなものだった。

心温まるハーモニー　合唱

七月十日、美浜町ゆうあい広場にて、合唱部の三年生引退無観客コンサートが行われた。「ラ・ベラ・ピアッツァ」と「ＮＨＫ全国学校音楽コンクール」が中止となったが、中途半端に終わりたくないという部員の思いから実現した。合唱部顧問をはじめ数名の教職員に見守られ心温まるコンサートとなった。

部長の千田陽歩美さんは「先輩の歌声に憧れて始めた合唱だが、歌の楽しさを知り友達もできて良かった」と語った。副部長の山田祐加さんは「後輩には一つ一つのステージで誰に届けて歌うか考えながら頑張ってほしい」と後を託した。一年生の澤本千博さんは「先輩の大きな背中がカッコよかった。これから一年生も積極的に取り組んでいきたい。見守っていてください。大好きです」と語った。顧問の稲田先生は「よく響いてグッときた。十年後『ゆうあい広場でコンサートやったよね』と飲みながら話してほしい」と語った。

美しい声ドームに響く

圧倒的な強さ　ボート

七月二十三日～二十四日、久々子湖ボート場で県高校夏季特別大会が行われた。結果は六種目中四種目で優勝する圧倒的な強さで男女総合優勝を果たした。

部長の久保倫太郎さんは「いつも明るくお互いを励まし高め合ってきた。コロナの影響があっても「気合い！」と常に声を出してきた。後輩には自主性とチームワークを高めて欲しい」と語った。コックスの重田航希さんは「常に選手への言葉かけを意識してきた。最後のレースができて良かった」と語った。岸本唯佳さんは「県内で終わるのは悔しかったが、励まし合い最後の大会に臨んだ。『漕ぎきったら引退か～、出し切ろう！』と思って漕いでいた」とのこと。顧問の清水先生は「力を出し切り予想どおりの結果だった。選手はインターハイ中止を悔しがったが、次に向けていつもやってきたことを続けていこうと声をかけてきた。この経験を生かしてほしい」と健闘を称えた。

【成績】
女子シングル
二位　柴田
男子ダブル
一位　山口、津志田
二位　西野、前田
女子ダブル
一位　清水、馬野
女子舵手付きクォド
一位　岸本、中村、清水、中塚、青池
男子舵手付きクォド
一位　菅原、前田、田辺、岩崎、重田

また、七月二十八～二十九日、同じく久々子湖ボート場にて、県高校ボート選手権特別大会が行われ、出場した四クルーが優勝し、九月十八日から大阪で行われる全国高等学校ボート選手権特別大会の出場権を獲得した。

【成績】
男子シングル
一位　菅原
男子ダブル
一位　柴崎、岩崎
女子舵手付きクォド
一位　清水、岸本、柴田、馬野、浅野
男子舵手付きクォド
一位　山口、前田、津志田、田辺、脇田

力強いラストスパート

八強の強さを誇る　野球

県営球場と敦賀市総合運動公園野球場にて県高校野球大会が開催された。七月十九日、一回戦は大野を相手に九対二でコールド勝ちした。二十六日、二回戦は足羽を相手に六対〇の完封勝利で八強に進んだ。二十七日、三回戦は工大福井を相手に熱戦であったが〇対三で惜しくも敗退。

部長の中村樹希哉さんは「最後までチーム一丸で戦った。心配したが大会ができて嬉しかった。工大福井戦は接戦で点が入らなくても守備とリズムは崩さないようにした。新チームの頃、上手くいかないこともあったが、どんな時も自分たちで考えチーム力を上げることができた」と振り返った。顧問の玉村先生は「三年生が目指した優勝には届かなかったが、成長が表れた試合だった。練習ができない時期は、希望の光がある限り気持ちを切らさないようにと声をかけてきた。今大会には三年生全員が出場し、試合内容にも満足している」と語った。

四番植田のヒット

笑顔を忘れない　ソフトボール

八月一日、越前市武生東運動公園ソフトボール場にて夏季特別大会が行われた。一回戦は武生高校を相手に十対〇でコールド勝ち。準々決勝は強豪の福井商業高校を相手に〇対七で敗退した。

部長の北村涼香さんは「今大会には自分たちがやってきたことを先生や保護者に伝えたいという気持ちと、皆で最後の大会を楽しみたいという思いで挑んだ。ソフト部の自慢は笑顔で気持ちのこもった挨拶ができるところ。そして一人一人の言葉に責任があるところ。今年は十名の一年生が入部し、それぞれに良いところがある。強くなってほしい」と期待を込めた。顧問の三宅先生は「一回戦は自分たちの流れを作り、最後まで力を出し切れた。福商戦は大差だったがぶつかっていけた。声を掛け合い良い表情で戦えた」と評価した。

チーム一丸で戦う

迫力のある演奏　吹奏楽

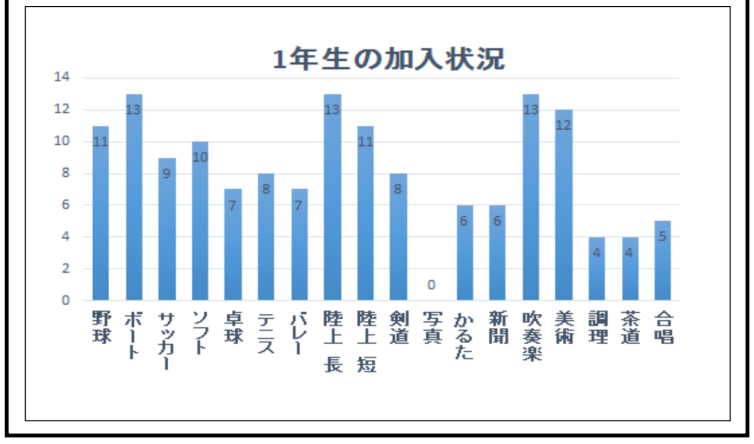
八月十日、パレア若狭音楽ホールにてサマーコンサート二〇二〇が行われた。このコンサートには「音楽の楽しさを届けたい。みんなで幸せの音楽を奏でたい」そんな生徒たちの思いが詰まっていた。

部長の瀬尾ほのかさんは「最後のコンサートを楽しんで終わることができた。吹奏楽部で頑張ってきて良かった。来てくれた保護者や先生方、忙しい中足を運んでくださり、ありがとうございました。顧問の先生へ、いろいろ大変だったけれど、引退する場を作ってくれたことに感謝です」と笑顔を見せた。

顧問の石川先生は「三年生の最後の思い出にとコンサートに挑んだ。演奏は楽しかった。引退と思うと寂しいが、また機会があれば一緒に演奏したい」と感慨深げだった。

輝く「ミカタ」の文字

活気が戻った部活動　一年生の加入状況

六月一日に休校が明けると、待ちに待った部活動が再開し、美方高校にも活気が戻った。一年生は見学・体験を経て百四十七人が部活動登録をした。加入率九十七％。

昨年度まで部員の確保に苦労していたサッカー部には九名の一年生が入部した。二年の森脇拓哉さんは「今までより幅広い練習ができるようになった。これで試合の時に助っ人を頼まなくてもやれる」と喜んだ。我ら新聞部には六名入部した。今後たくさん学んで皆さんに情報を発信していきたい。